

## 令和5年度阿蘇総合支援センター事業報告

## I はじめに

阿蘇総合支援センターでは、生活の中で困りを抱えておられる方々の相談窓口として、或いは子供の育ちに関して不安や悩みを抱えている保護者やお子様方への相談支援機関として、特定・児童相談事業、生計困難者レスキュー事業、児童家庭支援センター等を展開しています。

また、障害児の療育体制については、「きらり」「のびのびハウス」でお子様の育ちを支援すると共に、阿蘇圏域地域療育センター機能の充実に努めています。

## II 全体状況報告

## 1 実施事業一覧 (内容については個別実施報告に記載)

事業内容等		スタッフ
らいふパートナー	●一般相談支援事業	・相談支援専門員・地域移行推進員
	●特定相談支援事業	・相談支援専門員・地域移行推進員
	●児童相談支援事業	・相談支援専門員
らいふサポート	●生計困難者レスキュー事業	・相談支援専門員・地域移行推進員
阿蘇圏域地域療育センター	●地域療育センター機能強化事業 ●巡回支援専門員整備事業	・療育相談員 ・巡回支援専門員
児童発達支援センターきらり	●児童発達支援事業 ●保育所等訪問支援事業	・児童発達支援管理責任者 ・保育士・児童指導員
児童通所支援事業のびのびハウス	●放課後等デイサービス事業 ●保育所等訪問支援事業	・児童発達支援管理責任者 ・保育士・児童指導員・指導員
へきすい元気っ子クラブ	●放課後児童健全育成事業	・支援員・指導員
児童家庭支援センターふわり	●阿蘇・菊池児童家庭支援センター事業	・ケースワーカー ・心理士
地域福祉活動	●地域食堂「あそっこ食堂」	・担当者

## 2 主な会議・研修会参加状況

月	会議 ・ 研修
4	
5	・子どもの育ちを支える講座 ・子どもの精神疾患、児童精神医学の臨床
6	・ペアレントメンターコーディネーター会議
7	・強度行動障害支援者養成研修 ・相談支援従事者研修
8	・サービス管理責任者児童発達支援管理責任者研修 ・相談支援従事者研修

9	・ペアレントメンター合同研修 ・児童発達支援管理責任者スキルアップ研修
10	・サービス管理責任者児童発達支援管理責任者研修 ・熊本県医療的ケア児コーディネーター養成研修 ・全国児童家庭支援センター協議会研修
11	・サービス管理責任者児童発達支援管理責任者研修 ・熊本県医療的ケア児コーディネーターフォローアップ研修 ・熊本県児童家庭支援センター心理部研修
12	・相談支援従事者研修
1	・サービス管理責任者児童発達支援管理責任者研修
2	・熊本県障がい者相談支援連絡協議会研修
3	・児童福祉総合研修会

### 3 施設内会議

以下の会議について、毎月開催

【センター幹部会議】・・・主任以上

＊ 管理者会議の報告、行事・研修会等の企画、課題の検討等

【センター会議】・・・全職員

＊ 管理者会議・センター幹部会議の報告、当月行事予定等の確認、研修報告等

【指定相談支援会議】・・・相談支援専門員

＊ 毎月の新規プラン、更新プラン、モニタリングケースの件数確認

＊ 受け持ちケースの業務進捗状況の確認、困難ケースの検討、事業所内研修等

【のびのびハウス会議】・・・のびのびハウススタッフ

＊ 月案・週案・日案等の検討、学習会の開催、個別支援計画検討会等

【児童発達支援センターきらり会議】・・・きらりスタッフ

＊ 月案・週案・日案等の検討、個別支援計画検討会、事業所内研修等

【へきすい元気っこクラブ会議】・・・学童保育スタッフ

＊ 前月の活動報告、当面の予定・課題等の検討、研修報告等

【児童家庭支援センターふわり】・・・ふわりスタッフ

＊ 個別ケース会議（受理会議、支援方針会議）、学習会の開催等

## III 個別事業報告について

### 1. らいふパートナー

#### (1) 一般相談支援事業

##### ①阿蘇市・産山村相談支援事業（阿蘇市・産山村より委託）

##### <事業の取組>

- ・今年度も障がいを持ちながら地域で生活されている方々が、安心して暮らせるように、地域移行推進員が定期的にご自宅や職場を訪問するなどして、身近なところで相談できる体制の充実に向け取り組んだ。

## ・令和5年度実績

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	年間
対象人数	34	32	37	27	15	26	29	23	21	31	24	25	324
支援回数	73	83	73	65	54	68	85	77	72	77	84	69	880

## &lt;課題・次年度への提起&gt;

- ・ご自宅や職場を訪問するなどして、QOL（生活の質）の向上を見据えた取り組みを行っているが、ご本人のサービス利用に対する抵抗感など課題も多い。
- ・今後も特定相談支援事業所等とも連携を取り、ご利用者の満足につながる支援を粘り強く継続して行っていきたい。

## ②住宅入居者等支援事業（地域生活支援事業～阿蘇市より委託）

## &lt;事業の取組&gt;

- ・令和5年度実績は0件
- ・阿蘇圏域においては、障がいのある方が自宅以外で生活を送る際の地域資源の少なさから、グループホームや入所施設の利用等になりがちな傾向となっている。一方で、家族と同居し、地域の支援を受けながら生活されている方も多い。

## &lt;課題・次年度への提起&gt;

住み慣れた地域で生活を続けられるために、住宅の確保への支援は大変重要な事業であり、今後も積極的に取り組んでいきたい。

## ③地域移行・地域定着支援事業

## &lt;事業の取組&gt;

- ・令和5年度実績は0件
- ・障がいのある方が、住み慣れた地域を拠点とし、本人の意向に即して、本人が安心・充実した地域生活を送ることが出来るよう、地域定着支援への取り組みを進めている。

## &lt;課題・次年度への提起&gt;

緊急時に対応できるためには、当然ながら夜間の体制を整える必要があるが、一法人のみでは財政的負担が大きく対応できない状況が圏域の共通課題となっている。現状としては行政委託の相談支援事業や特定相談支援事業でサポートしながら地域定着に向けて支援している。今後も地域生活が継続されるための支援をしていく。

## (2) 特定相談支援事業・障がい児相談支援事業

## &lt;事業の取組&gt;

- ・ご利用者やご家族の意向を十分理解し、詳細なアセスメントやモニタリングに重点を置きサービス利用計画の作成に努めた。
- ・サービス担当者会議を開催し、ご家族やサービス提供機関と情報を共有すると共に、ご本人の頑張りを評価することにより、ご利用者が自己肯定感や将来への希望・意欲が持てるような支援を目指してきた。
- ・福祉サービスの外にもインフォーマルな社会資源の利用及び発掘に向け取り組んだ。

- ・令和5年度実績      \*計画＝サービス等利用計画

		特定										児童			計
契約件数(R5年3月時点)		153										225			378
計画作成件数(延べ件数)		64										211			275
モニタリング数(延べ件数)		192										256			448
計画数	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計	
	種別	16	7	2	2	1	1	11	6	2	5	9	2	64	
	特定相談	17	13	21	18	24	22	9	22	18	24	7	16	211	
	児童相談	計	33	20	23	20	25	23	20	28	20	29	16	18	275
モニタリング数	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計	
	種別	21	5	9	15	8	51	10	4	10	10	7	42	192	
	特定相談	25	22	30	17	25	20	20	25	22	22	18	10	256	
	児童相談	計	46	27	39	32	33	71	30	29	32	32	25	52	448
総計		79	47	62	52	58	94	50	57	52	61	41	70	723	

#### <課題・次年度への提起>

- ・障がい者施設等において対象者が高齢化している中、日中活動をサポートすると共に利用者の意向を尊重し、安心・安全に暮らせるためのサービス調整を行っていく。
- ・困難事例ケースなどに対応していくため、他事業所とのネットワークづくり及び地域資源の発掘等、積極的に関わっていく。

## 2. らいふサポート（生計困難者レスキュー事業）

### <事業の取組>

- ・生計困難者に対する制度の狭間の諸問題に市町村や社協等と連携し地域のセーフティネットとしての役割を担った。令和5年度は1件のケースに取組んだ。就労までの生活支援、債務整理手続、権利擁護利用、家計相談までの経済的支援を実施した。

- ・令和5年度実績（1ケースの相談）の内訳

項目	区分（人数）
年齢別	40歳代(1)
性別	男性（1）
世帯別	独居世帯（1）

### <課題・次年度への提起>

- ・就労支援事業所や市町村（生活困窮者自立支援制度）との連携など、今後とも当事者の自立した生活に向け力を尽くしていきたい。

## 3. へきすい元気っ子クラブ（放課後児童健全育成事業）

## &lt;事業の取組&gt;

- ・阿蘇総合支援センター「ふわりの杜」で実施している。阿蘇市、学校、放課後子ども教室担当者、保護者、放課後デイサービス事業者との連携をより密に事業を行った。
- ・感染症予防の為、マスク着用、手洗い、消毒、黙食、検温を徹底して行った。
- ・令和5年度実績

開所日：290日 児童数：75名（平日・長期：35名、長期休のみ40名）

指導員：15名（うち保育士1名）

- ・令和5年度実施行事等

月	行事等内容	月	行事等内容
4	入所式、指導員会議、春休みレク	10	指導員会議、阿蘇市担当者会議
5	指導員会議	11	指導員会議、新入生説明会、支援者研修
6	指導員会議、支援者研修	12	指導員会議、冬休みレク、誕生会
7	指導員会議、夏休みレク、阿蘇市担当者会議	1	指導員会議、冬休みレク
8	指導員会議、防災訓練、夏休みレク	2	指導員会議
9	指導員会議、支援者研修	3	指導員会議、阿蘇市担当者会議、退会式、春休みレク

## &lt;課題・次年度への提起&gt;

- ・安定した運営を実施するために、職場環境の整備、有資格者の雇用、支援員研修受講を積極的に行い指導員のスキル向上を図ることが重要である。

## 4. 阿蘇圏域地域療育センター

## &lt;事業の取組&gt;

## ●障害児等療育支援事業

## ①訪問による療育相談

## &lt;実施件数&gt;

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実施件数	0件	4件	1件	0件	1件	1件	2件	1件	1件	0件	0件	1件	12件

(就園児9名)

## ②外来による専門的な療育相談

## &lt;実施件数&gt;

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実施件数	9件	7件	8件	5件	4件	8件	4件	9件	9件	6件	6件	5件	80件

(未就園児3名 就園児15名 小学生5名 中学生2名 高校生2名)

今年度は熊本市内病院の地域連携相談員、通信制高校の就労支援担当教諭、保護者の雇用

主などこれまでなかった機関や関係者からの相談が目立った。

・親子ひろば「タッチ」

年間通して10家族の利用があった。内1名は困りの共有までに至らず家族の希望で終了したため、担当保健師とも連携し、対象児が利用している託児所の支援者支援に切り替えた。

各種研修会

○ペアレントトレーニング（1クール7回で実施）、親さんカフェ

・今年度も行政や関係機関からの紹介があり、4名の保護者が受講、発達障がい児の子育てに対する家族支援ができた。また、フォローアップ研修には3名の参加があり、2年ぶりに参加された保護者もいた。

発達障がい児の保護者支援として、「親さんカフェ」を3回実施。延べ7名が参加した。

○保育園・幼稚園職員向け研修会（1クール7回で実施）

・「発達障がい児支援者連続講座及び事例検討」に14名の職員が参加。

○医療的ケア児の支援に関する研修会

今年度も小児在宅医療支援センターを講師に迎え研修会を実施。参加者で市町村別にグループワークを行い、それぞれの役割や地域が抱えている課題などを共有していった。

○就学に向けての学習会

本年度は5月だけでなく10月にも小国支援学校の特別支援教育コーディネーターも講師に迎えて実施、参加者に時期についてのご意見も伺った。これを踏まえ来年度は10月に年1回の開催を予定する。

③ 施設支援

・昨年度から継続し、新規事業所に対し児童発達支援センターきらりと連携しながら、見学研修を6月に実施。

・阿蘇圏域障害児通所支援事業所連絡会を児童発達支援センターきらりと連携しながら年3回開催した。

④ その他の取組

<ペアレントメンター事業に向けた活動>

・熊本県障がい支援課、熊本県発達障がい者支援センターわっふると共に阿蘇医療センター、阿蘇温泉病院に出向きペアレントメンター事業の説明を行った。

・年間通してペアレントコーディネーターとして、関連する研修会や茶話会に参加した。

<令和5年度地域療育センター療育相談員研修・会議の参加>

・令和5年7月6日療育相談員研修9月29日療育相談員会議に参加した。

<教育分野との連携>

・阿蘇郡市特別支援連携協議会（教育事務所）及び阿蘇市特別支援連携協議会（阿蘇市教育委員会）と連携し情報交換等を行った。

・熊本県SSW活用事業における阿蘇地域連絡協議会に参加した。

●巡回支援専門員整備事業（市町村事業）

巡回実施総件数：140回

<保育園、幼稚園>

今年度は園側が具体的に児の行動をピックアップし、それについての行動の捉え方や園に

おける目標設定を考え合い、手立てを一緒に見つけていく支援を希望する園や、一つのクラスに絞って支援を受ける事を希望する園が増えた。

巡回実施件数：92回

#### <放課後児童クラブ>

利用児童のほとんどが低学年であるが、配慮が必要な児童の利用も年々増加していることから、今年度は主に「子どもの行動の捉え方」「関係機関との連携」を中心に支援を行った。また、学童・学校・家庭が「子育てチーム」として同じ意識を高める為のスムーズな連携、スタッフの共通理解の大切さについて支援した。

巡回実施件数：33回

#### <子育て支援センター>

今年度は、1巡目に支援者に向けて熊本県地域療育支援体制図や関係機関の役割についてのミニ講話を行い、利用している保護者の相談により専門的な情報提供や助言ができるようにした。

巡回実施件数：15回

## 5. 児童発達支援センターきらり

### <事業の取り組み>

#### (1) 児童発達支援

##### ①グループ療育

- ・個別支援計画の目標に沿った療育プログラムを、小グループで設定されたグループ療育及び保護者同伴による家族療育に取り組んだ。
- ・感覚統合では、遊具を用いて手足の筋力を促す遊びの支援や適切な身体の動かし方等、筋力を促す遊びの支援を行った。
- ・今年度、11名の年長児において就学前の準備に向けた1年生になる為の支援や、法人内の放課後デイサービスの見学と交流を兼ねた体験型の療育に参加して頂きスムーズに移行できるよう支援を行った。

##### ②個別療育

- ・グループ療育で関わりが不足する内容を児に合わせた療育プログラムを、専門スタッフが児にマンツーマンで支援を行った。

##### ③施設内研修

- ・今年度も心理士による心理相談や発達検査の実施を行った。又、施設内研修を2回実施し、ケースを通して「不適切行為への援助方法」について学んだ。
- ・身辺自立について「服の着脱方法の手順と援助方法」について施設内研修を行った。スタッフ間で着脱の手順を考え、支援する側のポイントや自立に向けた支援方法を考え合う事ができた。
- ・阿蘇温泉病院のPT・OTによる研修では、1回目「運動と姿勢について」遊具の目的やねらい、遊び方、どんなタイプの児に向いているか援助方法について学んだ。

#### (2) 保育所等訪問支援

- ・今年度はコロナの影響も5類に移行され緩和はされたものの実施が困難であった。
- ・保育園・幼稚園への送迎時、園・事業所での児の様子や関わり方について、情報を共

有し助言や適切な支援の充実、連携に努めた。

(3) 令和5年度利用状況（延べ人数）

〔児童発達支援〕

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
人数	101	102	108	101	99	97	112	115	104	115	117	107	1,278

〔保育所等訪問支援〕

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
人数	0	0	0	0	1	0	0	2	0	0	0	0	3

(4) 防災・防犯訓練

・総合訓練を1回、避難訓練を8回、震災訓練を1回実施した。

<課題・次年度への提起>

○児童発達支援実施

・新規事業所の見学実習受け入れを継続し、きらりで行う研修会への参加について内容の検討を行い、阿蘇圏域の通所支援事業所の技術向上を図る。

・阿蘇圏域の通所支援事業者の課題を把握し、具体的で実践的な取組を明確にしている。

○保育所等訪問支援

今年度は、訪問回数は3回と少なかったが次年度は積極的に実施していきたい。

○阿蘇圏域通所支援事業所連絡会

昨年度は7月、10月、1月の3回の連絡会議が実施できた。今年度も地域療育センターと連携し阿蘇圏域の通所支援事業所と「サポートブックについて」「関係機関との連携について」意見を出し合い情報共有と連携を図った。

6. のびのびハウス

<事業の取り組み>

○支援内容の共有化

ミーティングと振り返りを繰り返し行うことで、支援内容のスタッフ間での共有を強化していった。今後もPDCAサイクルを念頭に置きながら、さらに見解を一致させた支援を図っていきたい。

○支援スタッフのスキル向上への取り組み

施設内外の研修を多く取り入れ、そこで得た専門家の助言を次の支援の検討に生かしていった。また、スタッフ間の業務分けを検討し、効率化を図った。

○小学校高学年以上の利用児への支援

利用人数の大半が小学校低学年のため、一人ひとり個別のミッションを設定しているものの、年齢の高い利用児の満足度には不十分さが残ってしまっている。

令和5年度利用状況（延べ人数）

●放課後等デイサービス

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
人数	306	313	326	323	293	307	325	292	292	285	277	284	3623



## ●保育所等訪問支援

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
人数	0	5	4	5	0	2	1	3	0	2	2	2	26

## ① 情報発信

- ・SNS (LINE@) では、保護者から家庭や学校の様子の情報提供や、悩みのご相談が入り、リアルタイムで情報の共有や助言ができ、保護者の安心につながっている。

## &lt;課題・次年度への提起&gt;

## (1) 課題・次年度への提起

- ・支援内容が日々単発的で、つながりが十分でない事がまだ見られるため、今後は大きな目標を細分化してスモールステップが組み立てられることをしっかり意識してミッション設定などに取り組んでいきたい。
- ・小学高学年以上の利用児は、家庭や学校生活で周りからより高い要求を受けている現状がある為、個々の評価を細かくアセスメントし、日々の生活の中で「出来るようになった」と思えるような支援作りを行いたい。

## 7. 児童家庭支援センター ふわり

## &lt;事業の取り組み&gt;

## ① 地域・家庭からの相談に応じる事業

項目	電話 相談	来所 相談	訪問 相談	心理 療法	メール 相談	手紙 相談	その他 相談	相談 延件数	相談 実人数
件数	950	178	266	339	161	0	8	1,902	124

## 【地域別相談延べ件数】 ( ) 内は実人数

- ・阿蘇市 828件(33人) ・南小国町 2件(1人) ・小国町 130件(6人)
- ・産山村 68件(5人) ・南阿蘇村 230件(2人) ・西原村 58件(4人)
- ・菊池市 189件(9人) ・合志市 156件(10人) ・大津町 208件(8人)
- ・菊陽町 6件(1人) ・高森町 0件(0人) ・その他 27件(12人)

## ② 児童相談所からの委託指導

92件(実人数 1人)

## ③ 要保護児童対策地域協議会

代表者会議 6件(菊陽町、大津町、菊池市、合志市、阿蘇市、産山村)

研修会 1件(大津町)

ケース会議 13件(南阿蘇村、阿蘇市、小国町、菊池市等)

## ④ 個別支援会議

39件(市町村、学校、医療機関、福祉施設、訪問看護ステーション等)

## ⑤ 個別ケース情報共有

719件(市町村、学校、医療機関、福祉施設、訪問看護ステーション等)

- ⑥ 研修会講師及び助言  
8件（支援学校、児童発達支援センター、障がい者基幹支援センター等）
- ⑦ 関係機関との連絡会議  
5件（中央児童相談所、県子ども家庭支援課、SSW等）
- ⑧ 児童家庭支援センター連絡協議会  
6件（全国大会、九州支部、熊本県等）
- ⑨ 市町村説明会  
1件（菊池・阿蘇圏域市町村への児童家庭支援センターに関する説明会）
- ⑩ その他研修等  
7件（熊本県産前・産後母子支援事業報告会、その他研修講演会）

**<課題・次年度への提起>**

- ・関係機関と連携し、個別ケースに応じた地域ネットワークづくりを行う。
- ・事例検討会、外部研修、施設内研修等を行い、職員のスキルアップを行う。

**8. 地域食堂**

**<事業の取り組み>**

令和5年度は、12月と2月に実施し、10名程度親子での参加があった。お菓子作り体験、親子遊び、地域の仲間づくりなど、交流型「地域食堂」を実施した。

**<課題・次年度への提起>**

令和6年度は、回数を増やし実施して行きたい。